

スタンフォード大学研修の参加目的は、高磁場 MRI や分子イメージングを用いた研究、米国の医療制度、医療施設や 3D ラボ、診療放射線技師の現状を実際に見学し、今後の自分にどのように生かすかを学び考えることである。

スタンフォード大学での研修内容は、現在進行している研究や施設の紹介、今後の展望が中心となっていた。Michael Moseley 先生をはじめ多くの著名な講師の方々のプレゼンテーションは、興味をかき立てる内容と構成で時間が経つのを忘れてしまうほど刺激的であった。講義中には多くの質問や議論の時間が組み込まれ、昼食時間にも講師や研究生たちと交流をはかることができ、大変充実した研修体制であった。

私は現在 MRI を中心に臨床と研究を行っているため、MRI に関する講義や見学、体験が最も印象に残っている。特に 7T MRI の体験や Hyper polarization を用いた MRI の講義に大きな興味を抱き、医療機器としての MRI にとどまらず、これから多くの分野に新たな展開を示唆する講義の内容に、今後の MRI の可能性の大きさを実感した。

また今回の研修においては、日本放射線技術学会の国際化や学術大会のあり方について研修者らでディスカッションする場が設けられた。そこでは、発表演題の質の向上を目指すために採択基準を明確にすることや、良い演題には英語発表を促すこと、国際学会への参加費援助などについても討論された。これらが発表者のモチベーションを保つことや、会員のレベルアップ、ひいては学会の国際化に貢献できる方法の一つとして有効な手段だと考える。

本研修では、米国の最先端といわれる研究や技術を学び体験できる機会に恵まれ、医療人としての視野を広げる良い機会になった。加えて、全国から集った素晴らしい仲間たちと交流できたことは、現在の自分を見つめ直すことや、これからの臨床や研究に大きな活力をいただけたと感じている。今後この研修で得られたものを、より多くの患者さんや後輩たちに還元できるよう努めていきたい。そして我々が今後進むべき道を考える時、スタンフォード大学での体験は、かけがえのない財産となり大きな示唆を与えてくれることになるだろう。これからも、この素晴らしい研修が多くの本学会員のために継続されることを願う。

最後に、このような機会を与えていただいた日本放射線技術学会の関係者の皆様、スタンフォード大学の方々、研修中大変お世話になりました GEHC-J の皆様、引率のお世話をいただいた金沢大学の田中先生、そして本研修に快く送り出していただいた川崎医科大学附属病院中央放射線部諸兄に深く感謝いたします。



Lucas Center の 7T MRI 室にて Moseley 先生と筆者